

授業科目	*地域生活支援実習					実務家教員担当科目	○				
単位	2.	履修	必修	開講年次	3~4	開講時期	後期・前期				
担当教員	吉原 悦子										
授業概要	<p>実務経験を活かし、以下の内容の教育を実施する。</p> <p>地域で生活する人々とその家族の暮らしのありようと健康との関連を総合的に理解し、そこで出会う人々の健康レベルや健康課題を多面的に捉える。また、地域において健康支援にかかわる人々との連携協働について関心を持ち、対象の QOL 向上にむけた健康支援について、地域包括ケアの視点で考える。さらに、地域の人々や健康支援に関わり人々がもつ看護職への期待や要望を捉え、看護の役割を展望する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 地域で生活する人々のとのかかわりを通して、適切な人間関係を形成できる。 2. 地域で生活する人々とその家族の健康や暮らしを総合的に理解することができる。 3. 地域で生活する人々とその家族の健康レベルや健康課題を多面的に捉えることができる。 4. 地域で生活する人々の QOL 向上に向けた健康支援のあり方について考えることができる。 5. 地域において健康支援にかかわる多職種の協働について学び、看護師の役割を展望できる。 										
授業形態	実習				授業方法	実習					
学生が達成すべき行動目標											
標準的レベル	<p>地域で生活する人々とその家族の暮らしと健康について人間関係を形成しながら理解し、健康レベルや健康課題を捉えることができる。</p> <p>対象の健康支援について考えることができ、地域において健康支援にかかわる多職種について関心を持ち、看護の役割について理解できる。</p>										
理想的レベル	<p>地域で生活する人々と良好な人間関係を形成することができる。</p> <p>また、地域で生活する人々とその家族の暮らしと健康について十分に理解し、同時に健康レベルや健康課題を捉え、説明することができる。</p> <p>対象の健康支援について具体的に考えることができ、看護の対象や活動の広がり理解することができる。さらに地域において健康支援にかかわる人々（専門職にかかわらず）との連携協働について関心を持ち、看護の役割について学び、記述することができる。</p>										
評価方法・評価割合											
評価方法		評価割合（数値）				備考					
試験											
小テスト											
レポート		60%									
発表（口頭、プレゼンテーション）		10%									
レポート外の提出物											
その他		30%				実習時の姿勢・態度、発言などを総合的に評価します					
カリキュラムマップ（該当 DP）・ナンバリング											
DP1	-	DP2	○	DP3	○	DP4	○	DP5	○	ナンバリング	NU31304J

学習課題（予習・復習）		1回の学習目安 （時間）
実習前に事前学習として提示する		0
授業計画		
第1回	3年後期から4年前期にかけて指定された施設において、2週間の実習を行う。対象の暮らしと健康についてを聞き、これまでの講義・演習で学んだ知識をもとに看護を実践する。 実習内容およびスケジュールは看護学実習要綱を参照してください。	
テキスト	これまでに使用したテキストを使う	
参考図書・教材 ／データベース・ 雑誌等の 紹介	実習中適宜紹介する	
課題に対するフィードバックの方法	グループまたは個人に指導を行っていきます	
学生へのメッセージ・コメント	実習中は健康管理に十分に気を付けてください これまで学んだことを生かして実習をすすめてください 実習中は臨地、学内を問わず積極的に行動し、学びを深めてください	